

川崎市の皆さまへ（国土交通省チラシ）

○新飛行経路の運用状況等に係る資料（チラシ）

- ・ 2020 年 4 月～10 月の運用状況（P. 2～P. 5）
（令和 3 年 2 月 1 日）
- ・ 2020 年 11 月～2021 年 2 月の運用状況（春号）（P. 6～P. 9）
（令和 3 年 5 月 2 4 日）
- ・ 2020 年 11 月～2021 年 3 月の運用状況（秋号）（P. 10～P. 13）
（令和 3 年 9 月 1 0 日）

出展：国交省 HP「羽田空港のこれから」

川崎市の皆さまへ

羽田空港のこれから

羽田空港 新飛行経路の運用状況のお知らせです

日頃より、羽田空港の機能強化に伴う、新飛行経路の運用にご協力いただきありがとうございます。今般、夏ダイヤの運用実績がとりまとまったことから、新飛行経路の運用実績や国の取組などについてお知らせします。

羽田空港の新飛行経路は、2020年3月29日から運用を開始しています。新飛行経路の運用開始後は、各地で騒音測定を行い、その結果の分析を行っております。また、航空会社にヒアリングを行い、安全上問題なく運航できていることを確認しております。今後も引き続き、新飛行経路を運用し、騒音測定・分析や、航空会社・パイロットからのヒアリングを行い、騒音対策・安全対策に役立てていきます。

また、ホームページやニュースレターなどを活用し、運航便数や騒音・部品欠落等の情報を定期的に公表するなど、引き続き丁寧でわかりやすい情報提供を心がけてまいります。

最新の運用報告は、ホームページからご確認ください。



羽田空港のこれから [検索](#)

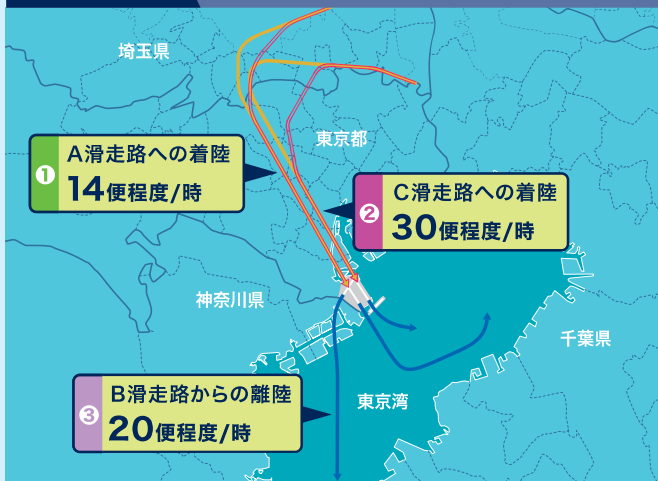
●新飛行経路と1時間当たりの運航予定便数

南風時

[運用時間]

●年間約4割
(過去の実績による。)

15時～19時(うち3時間程度)



騒音について

川崎市内でも常時騒音測定を行っています

新飛行経路の運用に当たっては、航空機の降下角の引き上げなどによる飛行高度の引き上げや、航空会社が空港に対して支払う着陸料の見直しによる低騒音機の導入促進などの騒音対策を講じています。

新飛行経路の運用開始以降、川崎市内でも常時騒音測定を行っています。

落下物について

確認された落下物は0件※

航空機からの落下物を未然に防ぐ観点から、国が定めた落下物防止対策の航空会社への義務付けや、国の職員による機体チェックなどの落下物対策を講じています。

※2020年11月30日まで

川崎市内の騒音測定局における測定結果や、騒音対策・落下物対策の詳細については、中面をご覧ください。

運用報告

羽田空港においても、新型コロナウイルスの影響により減便が続いております。南風時の新飛行経路の運航便数は、5月には予定していた便数の約23%でしたが、10月は約58%となっております。

〈南風時の新飛行経路における1日当たりの実際の運航便数〉

	3月29日~4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
運用日数	17日	20日	21日	20日	23日	10日	4日
①A滑走路着陸	約12便/日	約11便/日	約14便/日	約19便/日	約28便/日	約19便/日	約23便/日
②C滑走路着陸	約42便/日	約26便/日	約35便/日	約51便/日	約58便/日	約41便/日	約49便/日
③B滑走路離陸	約23便/日	約8便/日	約18便/日	約39便/日	約41便/日	約34便/日	約39便/日

※「運用日数」は、1便以上南風時の新飛行経路を運航した日数 ※お示ししている便数は、概ね3時間程度南風運用を行った日(好天時・悪天時)における新飛行経路運航便数の平均

騒音について

川崎市の騒音の状況

川崎市内にも固定騒音測定局を設置しています。この測定局における、新飛行経路の運用開始から10月までの騒音測定結果(実測値の平均)は以下の通りです。



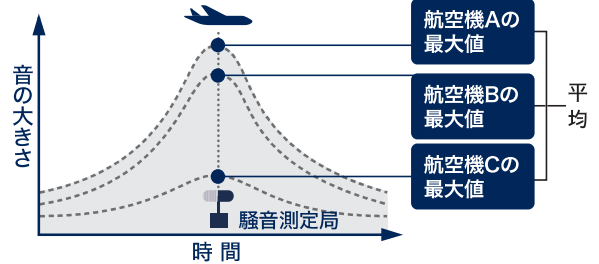
測定局	機体サイズ	実測値の平均<dB>							推計平均値<dB>
		3月29日~4月30日	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
国立医薬品食品衛生研究所<B離陸>	大型機	83.1(-7)	88.5(-2)	85.1(-5)	84.4(-6)	84.1(-6)	85.9(-5)	79.6(-11)	91
	中型機	81.2	81.7	83.7	82.6	82.3	82.9	82.7	—
	小型機	82.1(-3)	82.1(-3)	82.8(-3)	82.6(-3)	82.8(-3)	83.4(-2)	83.6(-2)	86

□ : 実測値の平均が推計平均値と同等 □ : 実測値の平均が推計平均値以下

●「実測値の平均」について

航空機の騒音は、気象条件、機体重量、エンジン出力など様々な要因によりばらつきが生じます。各航空機が通過したときに発生した騒音の最大値を「実測値」といい、すべての「実測値」を平均したものが「実測値の平均」です。また、「推計平均値」とは、事前のシミュレーションにより推計した騒音の最大値の平均であり、住民説明会などでお示ししていた値です。

※11月以降の騒音測定結果につきましても、「羽田空港のこれから」ホームページにて、順次公表しております。



航跡について

住民説明会などでお示した想定経路図に、実際に新飛行経路を運航した航空機の航跡データを重ね合わせ、運航状況を確認しております(右図)。

●全体的に想定経路の範囲内を飛行しております。

※新飛行経路運用開始後の各月における航跡図についても、「羽田空港のこれから」ホームページにて、公表しております。

10月の新飛行経路の航跡



■ : 想定経路(南風運用時B滑走路離陸) ■ : 実際の航跡データ

航空会社へのヒアリング結果

出発経路に関して、航空会社から安全性に関する問題の報告は受けておりません。引き続き、航空会社やパイロットからのヒアリングを行い、安全な運航に役立てていきます。

騒音・落下物対策などの取組について

これまで住民説明会などにおいて、様々なご意見をいただきありがとうございます。
皆さまからいただいたご意見を踏まえ、騒音対策や落下物対策に取り組んでいます。

騒音対策	 新飛行経路の運用時間を限定	 着陸料の料金体系に騒音の要素を追加	 着陸時の高度引き上げ	 着陸前の飛行高度を上げるため着陸地点を移設
	 着陸時の降下角の引き上げ	 西向きに離陸する航空機の制限	 条件を満たす施設への防音工事の助成	 騒音測定局の設置と結果の公開
落下物対策	 落下物防止対策の義務化	 駐機中の機体を抜くうちでチェック	 全国の空港事務所等を通じ、落下物に関する情報を収集	 航空会社の部品欠落の報告制度を充実
	 落下物の原因分析を強化	 落下物の原因者である航空会社への処分等の実施	 落下物による被害者に対する補償等を充実	

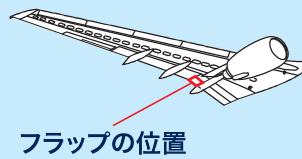
〈 新飛行経路の運用開始後には、皆さまから以下のようなご意見をいただきました。〈
皆さまからのご意見に真摯に向き合い、引き続き対策に取り組んでまいります。〉

落下物防止対策を強化してほしいです。

我が国で運航するすべての航空会社に対し、落下物防止対策を義務付けております。航空機メーカー等と調整し、対策の追加を順次行っております。

対策への追加例

ボーイング737型機のフラップの外板について、過去の欠落事例を踏まえて、メーカーであるボーイング社と原因究明・再発防止策の検討を行い、2019年10月より、航空会社に対し改良型フラップへの交換を義務付けております。



フラップの位置

【改良型フラップ】



外板を接着からボルト等による取付に変更

航空機の部品をしっかりとチェックしてほしいです。

落下物の未然防止のため、航空会社による徹底的な点検が行われています。加えて、羽田空港では、国の職員による機体チェックを実施しています。新飛行経路の運用開始後は、チェック要員を増やし、更なる点検強化に取り組んでいます。

航空機の小さな部品についても、国の職員自ら徹底的に点検を行っています。2019年度は600機以上をチェックしました。



音の大きい航空機による騒音影響を軽減してほしいです。

B滑走路からの西向きの離陸につきましては、新型コロナウイルスの影響による減便を踏まえた暫定運用として、国内線のB777型機（大型機）の離陸を可能な限り、A滑走路からの離陸（東京湾上空を飛行）に振り替えております。

騒音の測定地点を増やしてほしいです。

騒音の発生状況のよりきめ細かな把握のために、固定騒音測定局以外の地点において、9月下旬から各地で2週間の短期測定を実施しました。川崎市内では、川崎市立殿町小学校と川崎生活環境事業所において実施しています。測定結果は「羽田空港のこれから」ホームページで公表しております。

新飛行経路の固定化の回避に向けて取り組んでほしいです。

2020年6月30日に「羽田新経路の固定化回避に係る技術的方策検討会」を設置し、新飛行経路の固定化を回避するための方策について、最近の航空管制や航空機器の技術革新を踏まえて技術的観点から検討を行っております。現在は、考えられる飛行方式の洗い出しを行うとともに、出発経路・到着経路ともに参考となる海外事例の調査を行っております。第2回検討会は12月23日に開催いたしました。資料については、「羽田空港のこれから」ホームページをご覧ください。

情報公開について

下記ホームページにて、**新飛行経路の運用に関する情報を随時更新**しています。ぜひご覧ください。

羽田空港のこれから

<https://www.mlit.go.jp/koku/haneda/>



「羽田空港のこれから」では、新飛行経路や騒音・落下物対策、運用状況、よくある質問への回答などを公開しています

新飛行経路に関して、以下の情報を随時公開していきます。

	項目	各ダイヤごと (概ね半年に1回)	2ヶ月に1回
騒音対策	各騒音測定局の騒音測定結果	○	○
	全体の騒音分析	○	
	就航機材割合	○	
落下物・安全対策	部品欠落件数及び欠落部品内容	○	○
	落下物防止対策基準の拡充(拡充する場合)	○	
	駐機中の機体チェック件数・ランブインスペクション実施状況	○	
運用実績	新飛行経路の運用実績・運航便数	○	○
	北風・南風の運用割合	○	○
	航跡図	○	○
	ゴーアラウンド発生状況	○	

羽田空港飛行コース ホームページ

<https://www.ntrack.mlit.go.jp/NtrackTop/show>



このホームページでは、羽田空港に離着陸する航空機の航跡・飛行高度・機種と、各騒音測定局における測定値について、アクセス日の前日から1ヶ月前までの記録をご確認いただけます。

※本ホームページに表示される航跡は、レーダーによる1分に1回の位置データをコンピュータ処理して作成しているため、実際の飛行経路とは異なる場合があります。



INFORMATION

「HANEDA GLOBAL WINGS」に、 羽田空港跡地が生まれ変わりました。

2つのゾーンからなる「HANEDA GLOBAL WINGS」。第1ゾーンでは、2020年9月18日に「文化産業と先端産業の融合」をコンセプトとした「HANEDA INNOVATION CITY」が本格稼働しました。第2ゾーンでは、13,000坪に及ぶ大規模複合施設の「羽田エアポートガーデン」を整備(開業日未定)。羽田空港跡地で「未来に向けて羽ばたくまちづくり」が推進されています。



羽田空港は、物流拠点としての 役割も担っています。

羽田空港は貨物便についても豊富な国際線・国内線ネットワークを有しており、工業製品や生鮮品などの流通に欠かせない存在となっています。コロナ禍において減少した取扱量も、現在は回復傾向にあります。

羽田空港では、約5万7千人[※]の方が 働いています。

グランドスタッフや整備士、店舗スタッフなど、羽田空港を安全に快適に利用していただけるように、様々な職種の人たちが働いています。川崎市からも約5,000人[※]の方が、羽田空港を職場としています。

※国土交通省のアンケート調査による。

羽田空港の新飛行経路に関する、地域の詳しい情報が掲載されている「ニュースレター」を、最寄りの市役所で閲覧いただけます。内容については、「羽田空港のこれから」のホームページにも掲載されていますので、併せてご確認ください。

このチラシの内容や、
航空機騒音・落下物等に
関するお問い合わせは

Tel:0570-001-596

受付時間7:00~20:00[土・日・祝含む]



お問い合わせ番号の一本化に伴い、2021年1月31日にて、0570-001-160の番号でのご案内は終了となります。

羽田空港 新飛行経路の 運用状況のお知らせです

日頃より、羽田空港の機能強化に伴う、
新飛行経路の運用にご協力いただきありがとうございます。

羽田空港では、2020年3月29日から新飛行経路の運用を開始しています。
このチラシでは、新飛行経路における騒音や、落下物に関する情報、新飛行経路の
固定化回避に向けた技術的検討の状況など、様々な情報をお届けします。
今後も引き続き、ホームページやニュースレターなども活用し、丁寧でわかりやすい
情報提供を行ってまいります。

最新の運用報告は、ホームページからご確認ください。



羽田空港のこれから 検索

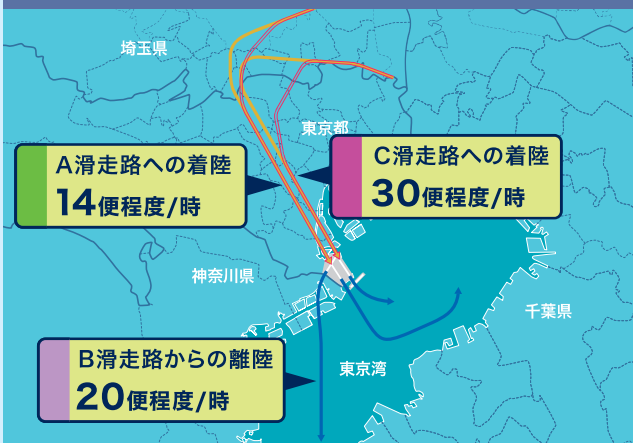


羽田空港は、豊富な国内線ネットワークを有するとともに、日本と世界をつなぐ重要な玄関口としての役割も担っています。2020年3月29日から運用を開始した新飛行経路は、この羽田空港における将来的な航空需要の拡大を見据え、我が国の国際競争力の強化などの観点から導入したものであり、引き続き運用していく必要があります。

●新飛行経路と1時間当たりの運航予定便数

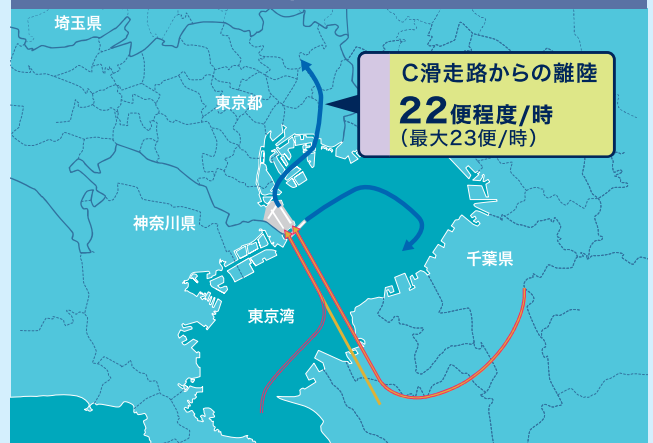
南風時 ●年間約4割(過去の実績による。)

[運用時間] 15時～19時(うち3時間程度)



北風時 ●年間約6割(過去の実績による。)

[運用時間] 7時～11時半 / 15時～19時(うち3時間程度)



到着経路(好天時) 到着経路(悪天時) 出発経路 約6,000ft(約1,800m)未満の経路を記載

お知らせ

新飛行経路の 固定化回避 について

第3回「羽田新経路の固定化回避に係る技術的方策検討会」 が開催されました。

地域の皆さまのご意見・ご要望を踏まえ、検討会を設置し、新飛行経路の固定化を回避するための方策を検討しています。これまで検討会を3回開催し、最新の技術を活用した飛行方式のメリット・デメリットを整理するとともに、羽田空港に導入する場合の課題の整理を行いました。

詳細につきましては、中面をご覧ください。

※このチラシは出発経路の関係区市の皆さま向けに作成しております。

到着経路の関係区市向けのチラシは「羽田空港のこれから」ホームページにてご確認ください。



運用報告 騒音・落下物対策について



新飛行経路の運用状況はどうなっていますか？



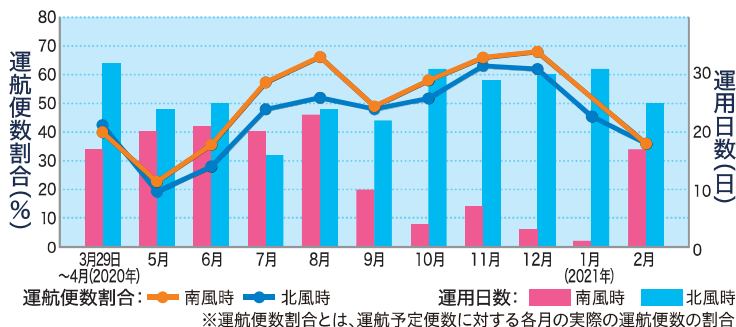
羽田空港においても、新型コロナウイルスの影響により減便が続いております。新飛行経路の運航便数は、2020年5月には予定していた便数の約2割でしたが、2021年2月には約3.5割になっています。

●新飛行経路における1日当たりの実際の運航便数

	2020年		2021年	
	11月	12月	1月	2月
南風時				
運用日数	7日	3日	1日	17日
A滑走路着陸	約27便/日	約23便/日	—	約20便/日
C滑走路着陸	約55便/日	約63便/日	—	約29便/日
B滑走路離陸	約45便/日	約45便/日	—	約20便/日
北風時				
運用日数	29日	30日	31日	25日
C滑走路離陸	約104便/日	約100便/日	約75便/日	約60便/日

- 南風時においては、概ね3時間程度南風運用を行った日における新飛行経路運航便数の平均
- 北風時においては、概ね7時間30分程度北風運用を行った日の新飛行経路運航便数の平均

●南風時・北風時の運用日数・運航便数割合※(2021年2月まで)



新飛行経路下の騒音状況について教えてください。



経路下に設置した19箇所の**固定騒音測定局**において、**常時測定**を行っております。また、9月下旬からは、騒音影響のよりきめ細かな把握を行うため、固定騒音測定局以外の24地点(東京都16地点、神奈川県2地点、埼玉県6地点)において、**計2週間の短期騒音測定**を実施しました。最新の測定結果は、以下のホームページにて公表しております。ぜひご覧ください。

ホームページ

羽田空港のこれから

—新飛行経路 定期運用報告について—

https://www.mlit.go.jp/koku/haneda/new_flight_path/#01



〈固定騒音測定局〉

- さいたま市立岸町公民館
- 川口市立八幡木中学校
- 板橋区立赤塚第二中学校
- 北区立袋小学校
- 豊島区立千早小学校
- 練馬区職員研修所
- 新宿区立落合第二小学校
- 小淀ホーム(中野区)
- 東京都交通局大島総合庁舎(江東区)
- 江戸川区立第五葛西小学校
- 渋谷区立広尾中学校
- 港区立高輪台小学校
- 目黒区立田道小学校
- 東京都立産業技術高等専門学校品川キャンパス
- 東京都下水道局南部下水道事務所品川出張所
- 東京都下水道局八潮ポンプ所(品川区)
- 大田区立大森第五小学校
- 国立医薬品食品衛生研究所(川崎市)
- 大田区立羽田小学校

騒音対策



新飛行経路の運用時間を限定



着陸時の料金体系に騒音の要素を追加



着陸時の高度引き上げ



着陸前の飛行高度を上げるため着陸地点を移設



着陸時の降下角の引き上げ



西向きに離陸する航空機の制限



条件を満たす施設への防音工事の助成



騒音測定局の設置と結果の公開



航空機からの落下物は発生していませんか？



新飛行経路において確認された**落下物は0件**です。

●2021年3月31日まで

落下物対策



落下物防止対策の義務化



駐機中の機体を抜くうちでチェック



全国の空港事務所等を通じ、落下物に関する情報を収集



航空会社の部品欠落の報告制度を充実



落下物の原因分析を強化



落下物の原因者である航空会社への処分等の実施



落下物による被害者に対する補償等を充実

〈新飛行経路での運航に関して、航空会社にヒアリングを行っています〉

出発経路に関して、航空会社にヒアリングを行ったところ、安全性に関する問題の報告はありませんでした。今後も引き続き、航空会社やパイロットにヒアリングを行い、安全運航に役立てていきます。





新飛行経路の固定化回避 について



皆さまからのご意見・ご要望を踏まえ、新飛行経路の固定化回避のための方策について検討を行っております。



これまでの検討内容について教えてください。



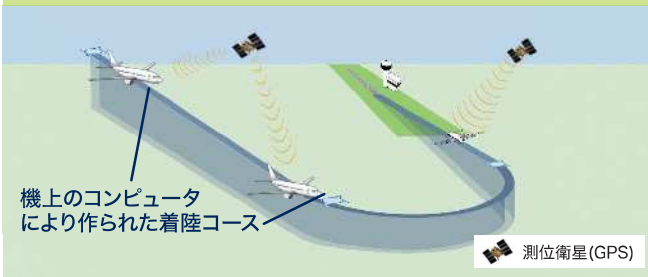
2020年度は、新飛行経路の固定化回避に向け、最新の技術を活用した飛行方式の洗い出し、対応可能な航空機などの論点の整理、参考となる海外空港事例の調査を行ってまいりました。

第3回検討会(2021年3月17日)においては、様々な飛行方式のメリット・デメリットを整理の上、羽田空港への導入可能性のある6つの飛行方式に絞り込み、羽田空港に導入する場合の課題の整理を行いました。

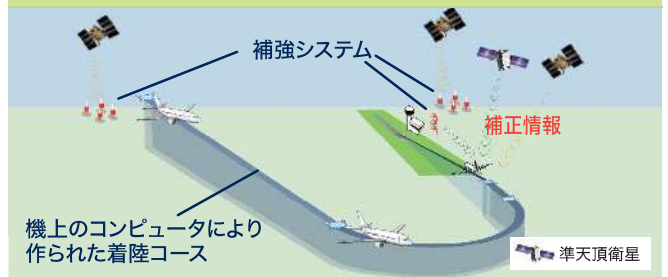
〈検討を行っている飛行方式〉

※①、②、④は各1方式、③は3方式について検討しています。

①測位衛星(GPS)を使用して着陸する方式



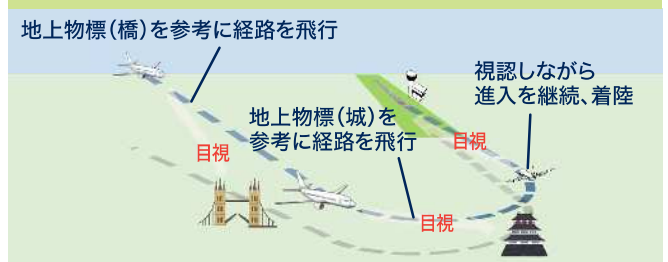
②測位衛星(GPS)を使用して着陸する方式(他のシステムにより補強)



③測位衛星(GPS)を使用して着陸する方式(目視による飛行部分を含む)



④パイロットの目視による進入



各飛行方式の課題の例

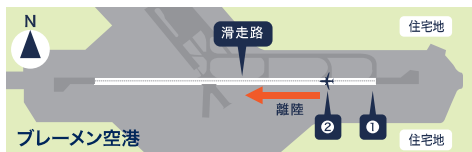
- 対応可能な航空機の割合の向上
- 飛行経路設定に関する基準や運用ルール等の策定
- 国際基準との整合性の確認 等

〈海外空港における騒音軽減方策の事例〉

最新技術を活用した飛行方式の導入例や、騒音軽減等の観点から行われている管制運用の事例の調査を行ったところ、出発経路下の騒音軽減等を目的として、以下のような方策がとられていることが確認できました。

事例1 離陸時の滑走開始地点の指定 【ドイツ/ブレーメン空港】

一部の航空機について、西向きに離陸する場合に、①ではなく、住宅地からより離れた②から離陸滑走を開始し、空港東側の住宅地への騒音影響を軽減。



事例2 精度の高い飛行方法の指定 【ドイツ/フランクフルト空港】

飛行経路のブレを抑制するため、より精度の高い飛行方法を指定。



今後の進め方について教えてください。



飛行方式の更なる絞り込みを行った上で、下記のような羽田空港への導入を見据えた検討・検証を行っていきます。

- 基準※の策定や国際基準との整合性の確認
- 安全性の評価
- 航空会社・パイロットへの確認
- 騒音軽減効果の検証

● 次回検討会については、詳細な日程が決まり次第お知らせさせていただきます。

※飛行経路設定に必要な基準、運用ルールなど。



新たな飛行方式や、騒音軽減に資する管制運用を活用し、
出発経路下、到着経路下それぞれの騒音軽減に資する総合的な方策を検討していきます。

情報公開について

下記ホームページにて、**新飛行経路の運用に関する情報を随時更新**しています。ぜひご覧ください。

羽田空港のこれから

<https://www.mlit.go.jp/koku/haneda/>



「羽田空港のこれから」では、新飛行経路や騒音・落下物対策、運用状況、よくある質問への回答などを公開しています。

新飛行経路に関して、以下の情報を2か月ごと(※項目は概ね半年ごと)に公表しています。

騒音対策	各騒音測定局の騒音測定結果 騒音測定結果の速報版については、毎月公表しています。
	全体の騒音分析※
	就航機材割合※
落下物・安全対策	部品欠落件数及び欠落部品内容
	落下物防止対策基準の拡充(拡充する場合)※
	駐機中の機体チェック件数・ランプインスペクション実施状況※

運用実績	新飛行経路の運用実績・運航便数
	北風・南風の運用割合
	航跡図
	ゴーアラウンド発生状況※

羽田空港飛行コース ホームページ

<https://www.ntrack.mlit.go.jp/NtrackTop/show>



羽田空港に離着陸する航空機の飛行コースと各騒音測定局における測定値について、アクセス日の前日から1か月前までの記録をご確認いただけます。また、トップページでは、羽田空港のリアルタイムの運用状況をご確認いただけます。

リアルタイムの運用状況



飛行コースと騒音値

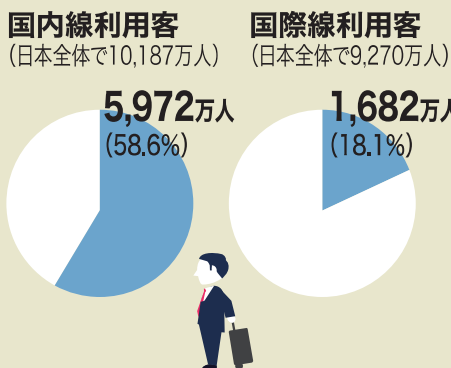


引き続き、騒音対策・落下物対策に取り組むとともに、地域のみなさまへの丁寧な情報提供に取り組んでまいります

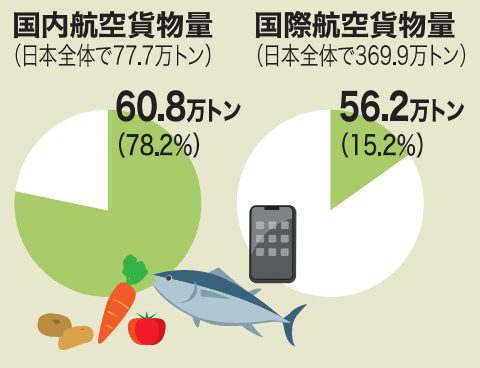
羽田空港は、わたしたちの生活を支える大事な空港です。

羽田空港は、都心に近く、24時間運用されているという利便性の高さから様々な需要に対応し、**世界と日本各地のヒト・モノをつなぐ大切な役割**を担っている空港です。2021年夏ダイヤでは、国際線は世界の25か国・地域(51都市)と、国内線は日本各地の49空港※と結ばれています。このネットワークを活かして、スマートフォンや医療機器などの精密機械や、魚・肉等の生鮮貨物など様々な航空貨物が運ばれており、私たちの生活を支えています。

国内線利用客の約6割が羽田空港を利用



国内航空貨物の約8割が羽田空港を使用



※現在は、新型コロナウイルスの影響により、減便・運休が発生しています。

●旅客便に積載されている貨物量 ●2019年度

このチラシの内容や、航空機騒音・落下物等に関するお問い合わせは

Tel:0570-001-596

受付時間7:00~20:00[土・日・祝含む]

お問い合わせ番号の一本化に伴い、2021年1月31日にて、0570-001-160の番号でのご案内は終了しました。



羽田空港の最新情報を国土交通省よりお知らせします

日頃より、羽田空港の機能強化に伴う、新飛行経路の運用にご協力いただきありがとうございます。

このチラシでは、固定化回避検討会の内容や、

2020年冬ダイヤの運用実績を基にした騒音の状況などをお知らせします。

今後も引き続き、ホームページやニュースターなども活用し、丁寧でわかりやすい情報提供を行ってまいります。

最新の運用報告は、ホームページからご確認ください。



羽田空港のこれから 検索

お知らせ

第4回「羽田新経路の固定化回避に係る技術的方策検討会」が開催され、
出発経路の方策の整理、到着経路の2つの飛行方式の選定が行われました。

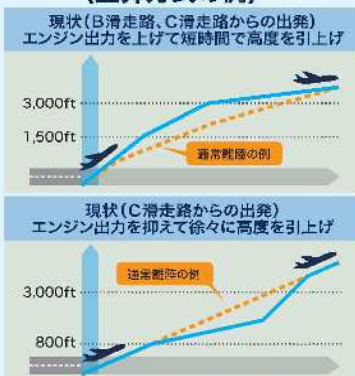
「羽田新経路の固定化回避に係る技術的方策検討会」において、新飛行経路の固定化を回避するための技術的方策を検討しています。

第4回固定化回避検討会

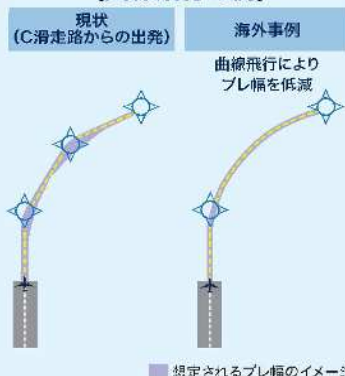
(2021年8月25日)

出発経路の騒音軽減方策を整理しました

〈上昇方式の例〉



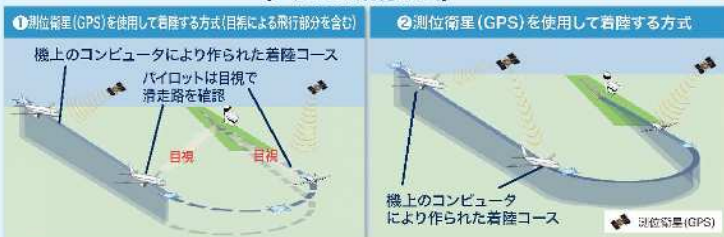
〈曲線飛行の例〉



到着経路の新たな飛行方式を選定しました

羽田空港への導入に必要な取組の実施に要する期間が比較的短く、かつ、騒音軽減効果の大きい2つの飛行方式を選定しました。

〈選定した飛行方式〉



今後の取組

最適な騒音軽減方策の 具体的な検証を実施します

実際の運用実績やシミュレーション結果を踏まえた最適な出発経路の騒音軽減方策を検証していきます。



導入への具体的な 取組を実施します

選定した飛行方式の羽田空港への導入に向けた具体的な以下の取組を実施していきます。

- 安全性の評価
- 基準※の策定
- 騒音軽減効果の検証
- 飛行方式に対応する機材導入や乗員の確保促進

※飛行経路設定に必要な基準、運用ルールなど

川崎市内の騒音測定局における測定結果や、騒音対策・落下物対策の詳細については、中面をご覧ください。

新飛行経路の運用・騒音・落下物などについて



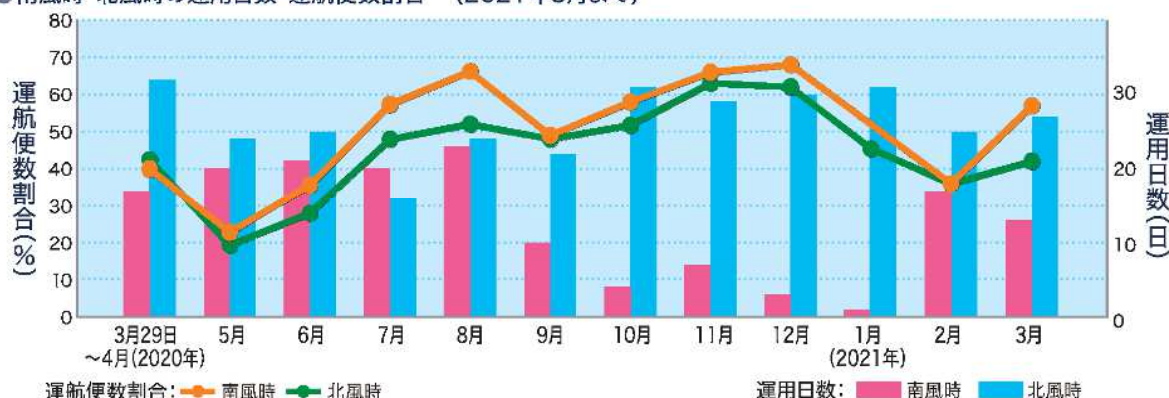
新飛行経路の運用状況はどうなっていますか？



新型コロナウイルスの影響により減便が続いています。

2021年3月における南風時の新飛行経路の運航便数は、予定していた便数の約6割となっています。

●南風時・北風時の運用日数・運航便数割合^{※1} (2021年3月まで)



※1 運航便数割合とは、運航予定便数に対する各月の実際の運航便数^{※2}の割合

※2 運航便数とは、概ね3時間程度南風運用、あるいは概ね7時間30分程度北風運用を行った日の新飛行経路運航便数

●2021年1月については、40分程度南風運用を行った日が1日ございますが、概ね3時間程度南風運用を行った日はなく、運航便数割合は示しておりません。



騒音測定結果について教えてください。



市内の固定騒音測定局で常に騒音測定を行っています。

市内の騒音測定局における2020年冬ダイヤの測定結果(実測値の平均)は以下のとおりです。

●川崎市内における2020年11月～2021年3月の騒音測定結果

測定局	機体サイズ	実測値の平均(dB)					推計平均値 (dB)
		2020年11月	12月	2021年1月	2月	3月	
国立医薬品食品衛生研究所 (B離陸)	大型機	81.6	83.1	—	80.7	82.4	91
	中型機	81.7	80.7	78.4	80.7	81.4	—
	小型機	83.1	82.5	80.6	82.5	83.0	86

□ : 実測値の平均が推計平均値と同等 □ : 実測値の平均が推計平均値以下

※推計平均値とは、事前のシミュレーションにより推計した騒音の平均であり住民説明会などでお示していた値。

ホームページにて最新の測定結果を公開しておりますので、ぜひご覧ください。

「羽田空港のこれから —新飛行経路 定期運用報告について—」
https://www.mlit.go.jp/koku/haneda/new_flight_path/#01



航空機からの落下物は発生していませんか？








新飛行経路において確認された**落下物は0件**です。

※2021年7月時点

国土交通省では、落下物※には至らないものの、到着後の点検において航空機の部品がなくなっていることが確認されたもの(部品欠落)について情報収集を強化し、**航空会社・メーカーと協力して原因分析**を行い、対策を立てて**再発防止**に取り組んでいます。

※地上(空港外)で航空機の部品等が発見された場合に「落下物」として扱います。

●新飛行経路の運用にあたっては、様々な落下物対策に取り組み、未然防止を徹底しております。

落下物対策	 落下物防止対策の義務化	 駐機中の機体を抜きうちでチェック	 全国の空港事務所等を通じ、落下物に関する情報を収集	 航空会社の部品欠落の報告制度を充実
	 落下物の原因分析を強化	 落下物の原因者である航空会社への処分等の実施	 落下物による被害者に対する補償等を充実	

新飛行経路は安全に運用されていますか？

航空会社にヒアリングを行ったところ、**安全性に関する問題の報告はありませんでした。**
今後も引き続き、航空会社やパイロットにヒアリングを行い、安全運航に役立てていきます。



今日、川崎市上空を飛行しますか？

ホームページでリアルタイムの運用状況が確認できます。

川崎市上空を飛行する新飛行経路は、羽田空港周辺が**南風の場合の15時～19時のうち3時間程度に限りて運用**されます(南風運用は年間約4割であり、冬場も1割程度運用されています※)。

※2020年度実績



●新飛行経路と1時間当たりの運航予定便数



「羽田空港飛行コースホームページ」<https://www.ntrack.mlit.go.jp/NtrackTop/show>

航空機の航跡・飛行高度・機種と各騒音測定局における測定値についても、アクセス日の前日から1ヶ月前までの記録をご確認いただけます。



航空機の航跡は、どうなっていますか？

全体的に**想定経路の範囲内**を飛行しております。

住民説明会などでお示した想定経路図に、実際に新飛行経路を運航した航空機の航跡データを重ね合わせ、運航状況を確認しております(右図)。

※新飛行経路運用開始後の各月における航跡図についても、「羽田空港のこれから」ホームページにて、公表しております。

■ : 想定経路(南風運用時B滑走路離陸) ■ : 実際の航跡データ



情報公開について

羽田空港のこれから

<https://www.mlit.go.jp/koku/haneda/>



「羽田空港のこれから」では、新飛行経路や騒音・落下物対策、運用状況、よくある質問への回答などを公開しています。

新飛行経路に関して、以下の情報を2か月ごと(※項目は概ね半年ごと)に公表しています。

騒音対策	各騒音測定局の騒音測定結果 <small>騒音測定結果の速報版については、毎月公表しています。</small>
	全体の騒音分析※
	就航機材割合※
落下物・安全対策	部品欠落件数及び欠落部品内容
	落下物防止対策基準の拡充(拡充する場合)※
	駐機中の機体チェック件数・ランプインスペクション実施状況※

運用実績	新飛行経路の運用実績・運航便数
	北風・南風の運用割合
	航跡図
	ゴーアラウンド発生状況※



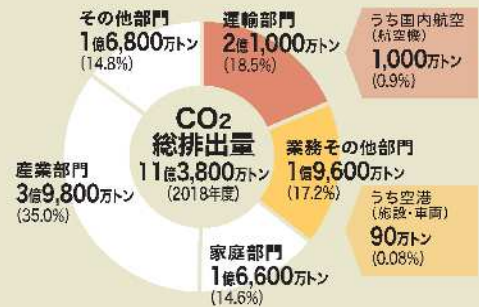
トピックス

1 航空分野でもカーボンニュートラル実現に向けた取り組みが進められています。

我が国のCO₂排出量のうち、約0.9%は航空機から、約0.08%は空港から排出されています。(2018年度)政府として掲げる「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現」に向け、航空分野においても検討会を立ち上げ、航空機・装備品等への新技術導入、藻類や木質バイオマス等を用いた持続可能な航空燃料(SAF)の導入、空港施設や車両等のCO₂排出削減などについて検討を行っています。



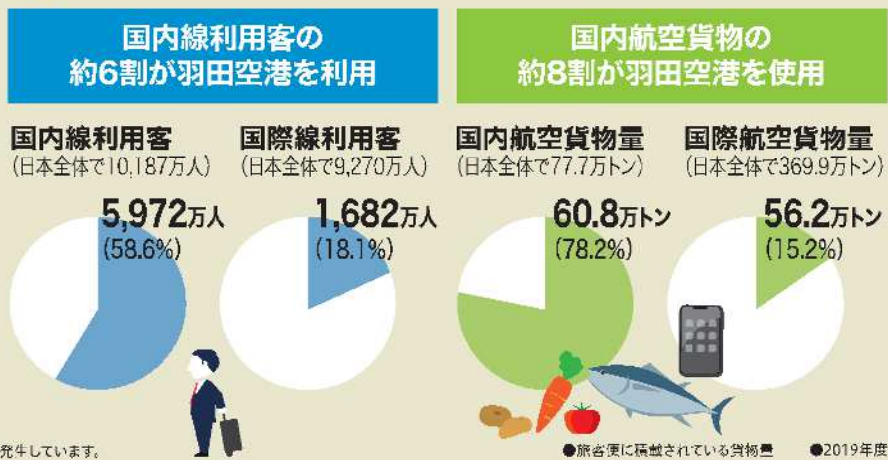
国内のCO₂排出量の内訳



2 羽田空港は、わたしたちの生活を支える大事な空港です。

羽田空港は、都心に近く、24時間運用されているという利便性の高さから様々な需要に対応し、世界と日本各地のヒト・モノをつなぐ大切な役割を担っている空港です。2021年夏ダイヤでは、国際線は世界の25か国・地域(51都市)と、国内線は日本各地の49空港※と結ばれています。このネットワークを活かして、スマートフォンや医療機器などの精密機械や、魚・肉等の生鮮貨物など様々な航空貨物が運ばれており、私たちの生活を支えています。

※現在は、新型コロナウイルスの影響により、減便・運休が発生しています。



引き続き、騒音対策・落下物対策に取り組むとともに、地域の皆さまへ丁寧でわかりやすい情報提供を行ってまいります。

このチラシの内容や、航空機騒音・落下物等に関するお問い合わせは

Tel:0570-001-596

ナビダイヤルに接続できない方は 050-3655-5960
受付時間7:00~20:00[土・日・祝含む]

最新の運用報告は、ホームページからご確認ください。

羽田空港のこれから 検索

<https://www.mlit.go.jp/koku/haneda/>



そのほか「羽田空港のこれから」ご意見カードを市役所等にご用意し、皆さまからのご意見を承っております。